

要 旨

表 題

2, 3, 3, 3, 2', 3', 3', 3'-オクタクロルジプロピルエーテルのオオミジンコに対する急性遊泳阻害試験

試験目的

2, 3, 3, 3, 2', 3', 3', 3'-オクタクロルジプロピルエーテルのオオミジンコに対する48時間急性遊泳阻害試験を実施し、50%遊泳阻害濃度(EC₅₀)を求め、オオミジンコの遊泳に対する2, 3, 3, 3, 2', 3', 3', 3'-オクタクロルジプロピルエーテルの毒性を明らかにすることを目的とする。

試験方法

本試験は「新規化学物質等に係る試験の方法について(平成15年11月21日薬食発第1121002号, 平成15・11・13製局第2号, 環境企発第031121002号)」, 別添 藻類生長阻害試験, ミジンコ急性遊泳阻害試験及び魚類急性毒性試験, V ミジンコ急性遊泳阻害試験に準拠した。

- 1) 被験物質：2, 3, 3, 3, 2', 3', 3', 3'-オクタクロルジプロピルエーテル
- 2) 試験生物：オオミジンコ (*Daphnia magna*)
- 3) 暴露方式：半止水式(24時間後全量換水), 密閉系
- 4) 暴露期間：48時間
- 5) 試験濃度(設定値)：対照区, 助剤対照区, 0.0056, 0.010, 0.018, 0.032, 0.056, 0.10及び0.18 mg/l(公比1.8)
- 6) 試験個体数：20頭/試験区(5頭4連)
- 7) 試験溶液量：2 l¹/1連
* 試験生物の投入により, 試験溶液中の被験物質濃度が低下することが確認されたため, 試験溶液量を変更した。
- 8) 試験水温：19.0~20.4℃
- 9) 溶存酸素濃度：8.8~9.2 mg/l(暴露期間中, 飽和溶存酸素濃度の60%を維持した。また, エアレーションは実施しなかった。)
- 10) pH：7.7~7.8(試験溶液のpH調整は行わなかった。)
- 11) 照 明：室内光, 16時間明/8時間暗
- 12) 給 餌：無給餌
- 13) 試験用水：水道水(つくば市水道水)を活性炭処理し, 残留塩素等を除去した後, 十分通気した脱塩素水
- 14) 分 析 法：ガスクロマトグラフ法

結 果

結果の算出は、試験溶液中の被験物質濃度の測定値から、幾何平均により求めた平均測定濃度を用いて行った。

- 1) 50 %遊泳阻害濃度 (EC₅₀) :
24時間後 ; 0.17 mg/l以上*
48時間後 ; 0.078 mg/l (95 %信頼限界 ; 0.066~0.093 mg/l) [Probit法]

*最高試験濃度で遊泳阻害率が50 %未満であったため、算出しなかった。

- 2) 0 %遊泳阻害最高濃度 :
24時間後 ; 0.092 mg/l
48時間後 ; 0.030 mg/l
- 3) 100 %遊泳阻害最低濃度 :
24時間後 ; 0.17 mg/l以上
48時間後 ; 0.17 mg/l